

国府小から発信！ 「パラリンピックリーフレット」を 作ろう！

発行
令和4年1月
中部教育事務所



授業者 小松桂子教諭（南国市立国府小学校）

教材 第3学年 パラリンピックが目指すもの
（東京書籍3下）

単元計画（全11時間）

- 第1次 1時 学習課題を確かめ、単元の見通しを立てる。
第2次 2時 リーフレットを作るために、「はじめ」「中」「おわり」の構成であることをおさえる。筆者が伝えたいことをおさえる。
3時 リーフレットを作るために、要約のポイントを共有し、「水泳」と教師作成の「アルペンスキー」について書かれている文章を読み、自分のリーフレットをまとめる。
本時 4時 3時同様、「ポッチャ」と教師作成の「ゴールボール」の例文を読み、要約のポイントを共有し書かれていることを要約する。
5、6時 「陸上」「車椅子ラグビー」の例文を読み、目的を意識して要約する。

- 7時 各種目の要約を比較し、気付いたことを交流する。
(3～7時) 並行読書教材を活用し、自分が興味のあるパラリンピックの種目について要約し、友だちと交流できるようにしておく。
第3次 8時 「国府小発パラリンピックリーフレット」にまとめてきたことを共有する。
9時 友だちとの共有から、自分のリーフレットがより伝わるものになるよう、加筆・修正する。
10時 作成したリーフレットについて、奈路小3.4年生とICTで交流する。(Googlemeet)
11時 単元を振り返り、付いた力を確認する。

本時で達成したい目標

◇パラリンピックが目指していることを奈路小学校の友だちに伝えるために、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

本時における深い学びとは

◇パラリンピックが目指していることを伝えるために必要な文や言葉を選んで、なぜその文や言葉が必要なのか理由をつけて説明している。

授業の概要

重点指導事項 C読むこと ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

本単元では「国府小発『パラリンピックリーフレット』で奈路小学校と交流しよう」という言語活動を設定した。第2次では、教材文での読みに加え、教師作成の教材を提示することにより、つけた力を活用させる場をできるだけ多く設定することで、要約する力をつけていく。筆者の願いや意図に沿って、要約の必要性を考えながら、中心となる言葉や文を選んで奈路小の友だちに伝えるためにまとめていく。

本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 本時の課題をつかむ。 前時までに「水泳」「アルペンスキー」で要約したことを思い出す。主部と述部について確認する。	・単元のゴールについてふれる。学習計画表を用いて、本時は既習を生かして、「ポッチャ」を要約することを伝える。
2 「ゴールボール」「ポッチャ」を要約する。 「ゴールボール」の動画を視聴し、イメージをふくらませて、教師作成の「ゴールボール」の例文を要約したあと、教科書教材「ポッチャ」の文章を要約する。	・前時に学習した「要約のポイント」が使えるかどうか尋ねることで、要約に視点をもたせ、必要な文や言葉が探せるようにする。 ・「ここは絶対に必要！」という所は？と尋ねることで、何を伝えるためにその文や言葉が必要なのかを意識させる。
3 自分のリーフレットを作成する。 本時の学びを生かして、自分が作成している「パラリンピックリーフレット」をまとめる。	・本時で確認し合った、「筆者が伝えたいこと」について、それぞれのまとめている文をもとにどんな工夫がされているのかを交流させ、競技によって「公平に参加できる工夫」があることを共有させる。
4 学習を振り返る。	・今日の学習をもとに、思ったことや考えたことを書くことができるよう、振り返りのポイントを示す。

★教材研究会・授業研究会ともに参加した先生の声

要約はともすると、方法論になりがちだが、必要な言葉を吟味することの大切さを実感した。協議で先生方と話し合うことによって深まったと思う。子どもの「なんで？」「どうして？」を大事にしていきたい。ありがとうございました。

授業研究会のポイント

①付けたい力を明確にした学習過程

教材研究会の指導案より

と発信していく。	○リーフレットを書くために、「はじめ」「中」「終わり」の構成であることを押さえる。及び言葉の意味を確認する。」「	・説明文の形式だね。『自然のかくし絵』の学習でも、段落ごとに内容をまとめたよ。中では「例えば…」という言葉で例をあげているね。」「
と発信していく。	○終わり部分を読み、パラリンピックが目指すものとは、「人が持つ多様さを認めること」「だれもが平等に活躍できる社会の実現を目指すためのもの」ということを押さえる。」「	・「筆者がパラリンピックで大切にしていることを終わりにまとめているんだね。」「 ・おすすめポイントもあるよ。」「 ・みんなが公平にスタートラインに立てるといいことだね。」「

授業研究会の指導案より

と発信していく。	○リーフレットを書くために、「はじめ」「中」「終わり」の構成であることを押さえる。及び言葉の意味を確認する。」「	・説明文の形式だね。『自然のかくし絵』の学習でも、「はじめ」「中」「終わり」に分けたり、段落ごとに内容をまとめたよ。」「
と発信していく。	○終わり部分を読み、パラリンピックが目指すものとは、「人が持つ多様さを認めること」「だれもが平等に活躍できる社会の実現を目指すためのもの」ということを押さえる。」「	・「筆者がパラリンピックで大切にしていることを終わりにまとめているんだね。」「 ・おすすめポイントもあるよ。」「 ・みんなが公平にスタートラインに立てるといいことだね。」「

言葉を正確に理解し、適切に表現することを繰り返すことは、資質・能力を育成することにつながる。今回の重点指導事項はC読むことウ 目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することである。「中心となる語や文」とは、本単元というどのようなことか。それは、「筆者が伝えたいことを伝えるため」に中心となる語や文のことである。筆者が何を伝えたいのかを考えながら読んでいくことが大切である。教材研究会では、あるグループから、2時間目に「はじめ」「中」「終わり」をおさえる際、「終わり」の部分で筆者が何を伝えたいのか、児童が理解しておく必要があることが提起された。ここで、筆者の伝えたいことをおさえることで、この時間以降、要約をしていく際に筆者の伝えたい「多様さ」「公平」「平等」といった言葉が持つ意味や使い方を考えながら、筆者の伝えたいことを伝えるための要約であることを児童が意識して取り組んでいく必要があるという理由からである。そこで、小松教諭は、授業研究会の単元構想図には、斜字で示しているように、見方・考え方を働かせている児童の姿をより明確に示した。このように、要約の力をつけるためには、「一単位時間をどうするか」ということではなく、「この単元をどのように構成することが、付けたい力を付けるために効果的か」を考え、学習過程を見通して構成することが重要なポイントである。



②本時で働く見方・考え方とは

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。本時で働く見方・考え方としては、要約するために必要な言葉を選ぶ時、「みんなが同じスタートラインに立つための工夫」という視点で、どの言葉が必要なのか、理由付けをしながら文や言葉を選んでいる姿である。単に言葉や文を省いていく要約の手法を教えるのではなく、「何のために」「どの言葉に目をつけるのか」、「それはなぜか」に重点をおき、目的を意識して要約する力をつけていく必要がある。

講師による助言・講話より（前鎌倉女子大学准教授 松永立志先生）

言葉による見方・考え方を働かせるためには、例えば、A、Bそれぞれのカードの裏にマグネットを貼り、黒板に貼れるようにして「どれとどの関係に着目したの？」と問うなどして、それらのカードを用いて言葉による見方・考え方を子どもに説明させることが効果的である。「対象」と「言葉」なのか「言葉」と「言葉」なのか、どの関係に着目しているか見えるようにし、「これとこの関係について、こう考えました」と説明させることが大切。どんな国語の学習でも必ずAとBがある。それを子どもに意識させること。本当に子どもが見方・考え方を働かせたのか、見えるようにしていく必要がある。

③本時の内容

本時は、奈路小学校3.4年生に、パラリンピックが目指していることを伝えるために、教師作成の「ゴールボール」の例文と教科書の文章「ポッチャ」を要約することに取り組んだ。筆者の伝えたいこと（平等に活躍できる社会の実現）が競技方法の中にどのように書かれているのか、「同じスタートラインに立つための工夫」としてどの文や言葉を選んで要約したらいいかを、吟味しながらまとめることを目指した。授業後半では、並行読書の本で「ブラインドサッカー」を読んでいる児童からも「ぼくがまとめている中にもガイドさんのことを書いています。」という発言があり、みんなが同じスタートラインに立つために、ガイドの存在が必要なことを実感している姿が見られた。

④単元ゴール 国府小から奈路小へ発信！

7月9日、3年生の児童は単元ゴールとして設定された「国府小からパラリンピックリーフレットを奈路小へ向けて発信し交流する」ことに取り組んだ。リーフレットは事前にPDFファイルにて奈路小へ送付しており、奈路小の3.4年生はこの時間までにリーフレットを読んで準備をしていた。国府小の児童は、自分たちの作成したリーフレットの中から、パラリンピックが目指すものに関連する問題をクイズ形式で出題し、解答に解説をつける等、単元のゴールまでつけたい力を意識して主体的に学習に取り組んでいた。また、奈路小学校3.4年生からも、国語科の文学的教材において重点指導事項（読むことウ）を明確にした発信（本のあらすじ紹介）がなされ、国府小の児童が熱心に聞き入る姿が見られた。両校共にICTを効果的に活用した、充実した学びの時間となった。